

| | |
|---------|------------------------------------|
| 氏名 | 岩 堂 昭 太 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 4207 号 |
| 学位授与の日付 | 平成22年 9月30日 |
| 学位授与の要件 | 医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |

| | |
|--------|--|
| 学位論文題目 | Time-dependent analysis of predisposing factors for the recurrence of hepatocellular carcinoma (時間依存型解析による肝細胞癌再発予測因子解析) |
|--------|--|

| | |
|--------|-----------------------------|
| 論文審査委員 | 教授 加藤 宣之 教授 土居 弘幸 准教授 八木 孝仁 |
|--------|-----------------------------|

学位論文内容の要旨

肝細胞癌再発危険因子についての報告の大半は、初回治療前の因子のみを用いた解析である。我々は、治療後のデータを加味した、臨床に即した再発危険因子の同定を試みた。

肝細胞癌初回根治治療を受けた271症例を対象とし検討した。治療前値による時間固定型多変量解析では、低血清アルブミン(Alb)値、多発腫瘍が再発危険因子として挙げられた。一方、治療後のビリルビン値、alanine aminotransferase (ALT)、Alb値、血小板数、alpha-fetoprotein (AFP)、des-gamma-carboxy prothrombin (DCP)を加えた時間依存型多変量解析では、高DCP、高AFP、高ALTが危険因子であった。

初回根治治療後の肝細胞癌再発危険因子は、治療前因子と異っており、AFP、DCP、ALTが、治療後の経過観察中に有用な再発予測因子であった。

論文審査結果の要旨

本研究では、肝細胞癌初回根治治療を受けた271症例を対象として、再発危険因子の同定を試みた。従来から報告のある治療前値による時間固定型多変量解析では、低血清アルブミン値、多発腫瘍が再発危険因子として同定された。しかしながら、治療後のビリルビン値やアラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)値などを加えた時間依存型多変量解析を行うと、高ALT値、高アルファフェトプロテイン値および高デスガンマカルボキシプロスロンビン値が再発危険因子として同定され、治療前値を用いた解析とは異なる因子が同定された。

本研究は、根治治療後の経過観察中に有用な癌の再発危険因子を明らかにした点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。